

5. 臨時委員会の活動(案) と自由討論

杉浦 紳之

(株)千代田テクノル 調査室

日本保健物理学会2022年度企画シンポジウム、2022年6月28日

臨時委員会の設置：目的

- 被ばくのカテゴリーと被ばく状況に関する検討委員会
 - 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連した課題に対し、**経験を伝えていくことの重要性**
 - 事故後、計画被ばく状況(のみ)に適用される線量限度を上回る参考レベルが初期には設定される場合があるという**防護体系の基本的なコンセプトが必ずしも社会的に受け入れられず、大きな混乱**
 - 当学会が放射線防護の専門家を多く抱え、**学会員の多くが同事故に関連した経験**
- 被ばくのカテゴリーと被ばく状況、特に、**計画・緊急時・現存被ばく状況の区分と放射線防護の実践**に関連して、福島第一原子力発電所事故後の経験も踏まえて現状と課題の整理を幅広い専門家の協力によって行い、**改善策を提案**

臨時委員会の設置：メンバー

○委員

委員長 杉浦紳之（千代田テクノル）

幹事 犬飼裕司（千代田テクノル、臨時委員会活動対応、委員長補佐）

幹事 佐々木道也（電中研/日本保健物理学会理事、対外対応等）

委員 黒田佑次郎（長寿研）

坪倉正治（福島県立医科大学）

丹羽太貫（放影研）

真船浩一（公立岩瀬病院）

三輪一爾（原子力機構）

村上道夫（大阪大、日本リスク学会推薦）

吉永信治（広島大、日本放射線影響学会推薦）

防護アカデミア等（日本放射線安全管理学会） 打診中

国際対応委員会、若手研 委員（必要に応じて）

○オブザーバー

吉田浩子（東北大学/ICRP第4専門委員会委員/日本保健物理学会会長）

甲斐倫明（日本文理大学/ICRP主委員会委員）

荻野晴之（原子力規制庁/ICRP TG114委員）

廣田誠子（広島大学/日本保健物理学会若手研）

臨時委員会の設置：検討の方向性（案）

- 委員等が有する福島第一原子力発電所事故後の経験・知見等を踏まえ、被ばくカテゴリーと状況に関する課題を抽出
- 関連文書の検討
 - ICRP刊行物103、109、111、146
 - ICRP刊行物111の解説書（日本アイソトープ協会）
 - ICRP TG84報告書「日本の原子力発電所事故で明らかにされたことと、放射線防護システムの改善への提言」
 - 日本保健物理学会「福島第一原子力発電所事故に関する放射線防護上の課題と提言」
 - 2021年に公開されたICRP論文 など
 - ラドン被ばく、航空機被ばく等の国外の検討状況
- 別途対応すべき課題(例えば、リスクの概念、ステークホルダーの関与等)が認められた場合には、新たな臨時委員会設置を含め、学会活動等に関し提案

指定発言と自由討論

(指定発言)

- 吉田浩子氏(東北大学)
- 藤田博喜氏(原子力機構)

(自由討論)

- ICRPへのインプット、科学論文としてのまとめ
- 何を参照し、どうまとめるか
といった観点からのコメントをお願いします。